

メッセージアウトライン

ヨハネ14：1~3「備えられている場所」

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい」

(1) 弟子たちはイエスがいなくなれば動揺することは必至である。それゆえイエスは今日のこの言葉を語られたのである。また、この言葉はいつの時代でも多くの人々を励ましてきた。私たちは人生の途上でさまざまな試練や苦しみに会う。そのような時に私たちのなすべき事は何か。それはまず第一に「神を信じる」ということである。「神」といっても人間の作りだした八百万の神々ではない。聖書の言う「神」とは私たち人間を造り、天地万物を造り、これを保持しておられる力ある神、全知全能の神、そのひとり子イエス・キリストを私たちの罪の救いのためにこの世に送り、十字架につけられた愛の神、真の神のことを言うのである。この真の神が私たちを愛し、助けてくださることを信じるのがまず第一歩。→ローマ8:31~32

次に、「またわたしを信じなさい」つまりイエス・キリストを信じなさいと言われている。神がこの世に送ってくださった御子イエス・キリストを自分の罪の救い主として信じること。その時私たちは救われ、私たちの心を騒がすさまざまな問題は解決に向かって動き始める。→ヨハネ3:16

「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのためにわたしは場所を備えに行くのです」

(2) イエスは父、すなわち父なる神の家に行って弟子たち、信じる者たち一人一人のために場所を備えに行くと言われる。私たちが永遠を過ごすことのできる住まいが天に用意されているということは何とすばらしいことであろうか。そこに行くための条件はただ一つ、神を信じ、イエス・キリストを信じることである。しかし、信じない場合はこのイエスのことばは実現しない。そして永遠のいのちではなく永遠の滅びに行かなければならなくなる。罪の支払う報酬は死なのである。→ローマ6:23

「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのものと迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです」(3) イエスは天国へ行って場所を備えたらそこでじっと待っておられるのではない。準備が出来たらまた迎えに来られるのである。→1テサロニケ

4:16~17, マタイ24:44~51, 24:3~14参照

信じる私たちはイエス・キリストがいつ来られてもよいように、心を整え、清い生き方をしている必要がある。信じているといっても口だけで、でたらめな生き方をしているならば、イエスが来られたときに、かえって厳しくさばかれるかもしれない。

もう一つ教えられることは、私たちがこの地上の生涯を終える時、その時イエスが迎えてくださるということである。それゆえ真のクリスチャンにとっては死は永遠の神の国、天国へ入るための入り口に過ぎない。

父の家には住まいがたくさんある。誰でも神を信じ、イエス・キリストを信じる者は、天においてこの住まいが用意される。私たちがこの約束をしっかりと握り、信仰と希望を持って地上のさまざまな問題を乗り越えていこう。